

1. 欲望する諸機械・オイディプス・精神分析

オイディプス: 思いつき製品・幻想

欲望する諸機械: 無意識の非オイディプスの生命を構成

ex. ピカビア, バスター・キートン

ピカビア

生涯に127回自動車を買換えたといわれるフランシス・ピカビア(1879-1953)。

16才でパリの装飾美術学校に入学し本格的に絵を学びはじめてから1953年に没するまで絵画、詩、映画などのさまざまな分野で変幻自在な活動を繰り広げました。とくにピカビアの画風は、初期の『印象派の時代』から最晩年の『非象形の時代』にいたるまで、『機械の時代』、『ダダの時代』、『怪物の時代』、『透明の時代』、『具象の時代』などさまざまに変わりました。その変身ぶり、そして時代区分の呼び方そのものが、通常の画家とは異なった才能の持ち主であることをうかがわせます。

20世紀は進歩の時代でした。前の目の絵画を否定し常に新しい絵画に挑戦したピカビアは、進歩という側面から見ればもっとも20世紀的な創作態度の画家でした。新しい時代を求める人々に、ピカビアの破壊的エネルギーと創造力による変身物語をお贈りします。疾走するダダリストピカビア展の宣伝より <http://www.apr.co.jp/ex-picabia.htm>
詩「母なく生まれた娘の詩と素描」 絵「母なし娘」1916-17がある

精神分析はオイディプスを多数にする。

想像的な，存在論的な，認識論的な，崇高な パパーママ の上に
欲望を折り重ねるべく欲望を切断する。

2. 欲望する諸機械の性格・能力

連続体の能力 門

方向を急変〔断絶〕する能力

機械は，母でもなく父でもなく，共同の充実身体(決定関)の上で，
接続を打ちたて切断を実行する。

3 . 機械と絵画

機械の絵画

機械という要素をキャンパスの充実身体の上で他のものと結びつけ、
機械を部品とするという仕方、機械という要素を導入する。

絵画全体が欲望する機械として作動する

「入れ子構造」

? キャンパスの上であり、表象されたものと見える機械が、
実は他の要素と結びつく部品であるということか?

機械の誘導的価値・転導的価値

誘導し転導することによって循環する

= 機械的循環 (対立 オイディプスの 投射一表象

ex. ヴィクトル・プロネ、デュシャン

機械という実在する要素が直接導入され、機械の似姿や偶然的メカニズムを通じて、
機械という要素それ自体が価値あるものとなる。

機械

非形象的・非投射的なる純粹《抽象》、組織的な強度状態を生産
循環的なる純粹諸強度、《情動的状態》

4 . 常套手段の紋切型 のイメージとしてのオイディプス

4 象徴的の第4項

3 三角形

2 二個のイメージ

1 ナルシシズム

0 死の欲動

と続くひとつのベクトル 自分自身が外界から消滅していく衝動
《遮断機》

抑圧するものであると同時に抑圧されるもの。

つまり欲望を停止すると同時に欲望を引き受け、停止した状態で欲望を表象する。

常套手段の紋切型のイメージ

5．欲望する機械における性欲

欲望する諸機械は本質的にエロティックなものだが、
いつか機械が「完全に女性と錯覚されるもの」を与えうるかを問題とはしない。

逆に、性欲は、

母なくして生まれる娘、
つまり非オイディプス女性を実際に生産する働きとしての 欲望一機械
というカップルの中に存する。

文学は、オイディプスの源泉を物語に帰する。

オイディプスは文学の贖の貨幣、真の市場価値

? 文学はオイディプスを語るから、市場で消費されうる。

ex. 《私生児たち》《見つけだされたこどもたち》

しかし一方で同時に別の企てに巻き込まれて別のこともしている。

脱コード化・脱土地化

幼年期は全くオイディプス的ではない、
オイディプス的であるのは幼年期の記憶。

著者がオイディプスの愚劣さ・空虚さを明らかにする効果的な仕方は、
幼年期の真の循環ブロックを自分の作品の中に注射すること。

6．循環ブロックを作品に注射した著者たち

カフカ、ブルースト

オイディプスの極を読者の鼻先で振り回してはいるが、
その奥深くで、人間的な愛を脱オイディプス化し、
倒錯機械のいやな予感を欲望に感じさせる(?感知させる)文学機械を生産。

彼らは面白半分にはオイディプス的人間なのであり、真に受けているひとびとは悲しい。

7．夢

夢の原理ロジェ・ダトゥン

欲望する諸機械の極

オイディプス的な極 夢のお話、イマージュが夢そのものを超越する

フロイトはいかにして精神分析を袋小路に迫り込んだのか。

フロイトは、
夢の内容を無視した
外界とのコミュニケーションとしての夢を把握し損ねた
夢を錯乱〔妄想〕によりも記憶に関係づけた
夢・徴候症状に内在する革命的射程を取り除く妥協的理論を仕上げた。(トロスト)

前意識的な連想や日常生活に由来する記憶は、いずれも夢には属していない。
夢の思想を発見し直すためには、的確に連想を破壊しなければならない。

トロストが提案した破壊の方法=裁断の操作は誤り
なぜなら、夢の断片は、性欲病理学教本の任意の一節に関係づけられてしまい、
その教本の一節が機械を形成することになる。連想の再形成。
連想が解離する瞬間を利用し、革命的無意識を解放する。

革命的無意識の向かうところ

- オイディプス的ではない男女というひとつの存在
- 「自由なメカニズムをもった」存在
- 「発見せられるべき人間集団の投出」
- 「欲望の全く非宗教的な強度」